

西新井税務署長賞

「食品ロスと税金」

足立区立 伊興中学校

三年 大島 愛可

ある夏休みの朝、プーンと不快な臭いが私の鼻に入ってきた。部活で学校へ向かう私は臭いのもとを探した。そこには、緑色のネットで覆われた溢れんばかりのゴミがあつた。炎天下での部活を終えて、朝も通ったゴミ置き場の前を通ると、山盛りだったゴミは綺麗サツパリ無くなっていた。清そう作業員によって清そう車で収集されたのだ。

ごみの収集は公共サービスである。公共サービスとは、国防、警察、ゴミ収集など、国や地方公共団体によって提供される非営利で公益的なサービスの事であり、基本的には利用料金が発生せず税金によって運営されている。

もし、税金によるゴミ処理が行われなくなったらどうなってしまうのだろうか。今でも収集が有料な粗大ごみが不法投棄され問題になっている。燃えるゴミや燃えないゴミまで有料になれば、間違いなく不法投棄やゴミ屋敷が増えてしまうだろう。酷い臭いがそこら中に漂い、気持ち悪い虫や害獣が増加し、汚染され病気が大量発生するかもしれない。ゴミ処理に使われている税金は、安全安心な生活をしていく上でなくてはならない大切なものだと思う。

公共サービスを支える税金について調べてみると、日本に

は約五十種類もの税金があった。誰から徴収してどこに支払うかで色々分かれていた。私の知っていた税金は、消費税等の三つ位だったので種類の多さに驚いた。

国税庁のホームページによると、国税が三番目に多く使われているのが地方交付税交付金等の十兆八百四億円だ。地方公共団体によって税收に差があるため、財政調整するために使われる。ゴミ処理は、地方公共団体によって行われている公共サービスなので、国税と地方税の両方が使われていることになる。

ゴミ処理にかかる税金は年間二兆円を超え国民一人あたり年間で約一万八千円。ゴミの総排出量は四千二百八十九万トンで、国民一人あたり年間で約一万八千円。ゴミの総排出量は四千二百八十九万トンで、国民一人あたり年間で約三十三キログラムになる。SDGsで知った世界の生産食品の三分の一は捨てられて食品廃棄物になっている事からも、食品ロスが税金を消費し、資源の無駄遣いだけでなく税金の無駄遣いを引き起こしてしまうことがわかる。私達は安全安心な生活を守るために、食品ロスを減らし大切な税金も守らなければならないのだ。

今はまだ中学生なので、貰ったお小遣いで消費税を支払ったことがあるだけだ。将来、働くようになった時、税金が自分の生活を支えていることを自覚して納税しなければならぬ。税金を支払えるようになるまでは、大切な税金の無駄遣いを少しでも減らせるよう協力していきたいと思う。食品ロスを減らすために苦手なものも残さず食べようと思う。